



現場の診療放射線技師、保健師が  
欲しい機能を持つシステム  
「SUMMITSII」の導入で、受診者、  
医療従事者双方にとって  
利便性、効率性が向上しました。

### トヨタ記念病院

#### トヨタ記念病院

- 所在地 : 愛知県豊田市平和町1丁目1番地
- 病院長 : 岩瀬 三紀
- 許可病床数 : 527床

#### 愛知県

豊田市にあるトヨタ記念病院  
では、2019年1月よりサン・プランニング・  
システムズ(SPS)の総合健診システム  
「SUMMITSII」を導入し活用されています。システム  
の選定や導入を行ったのは、診療放射線技師や保健師  
など、現場で健診システムを活用してきた皆さんが中心  
でした。「SUMMITSII」導入の経緯や現場の皆さんが  
実現したかったこと、導入効果などについて、  
健診センター 技師長 高宮浩一様、  
同主任 樋口直美様、同主任 丹羽哲也様、  
事務統括室 山口貴子様に詳しくお聞  
きしました。

## 2024年7月に予防医学施設の 拡充を目指し改装移転

### ●トヨタ記念病院について 教えてください。

トヨタ記念病院はトヨタ自動車株式会社の企業立病院で、基本理念は『笑顔』と『まごころ』あふれる病院～Smile&Heart～です。1938年に企業内診療所として開設され、1947年には健康保険診療を開始。地域に広く開かれた病院として一般患者の受入を開始しました。1957年に総合病院の承認を受け、1987年には、トヨタ自動車創立50周年を記念して現所在地に移転。トヨタ記念病院として開院しました。2007年には災害拠点病院に指定、2011年には救命救急センター承認、その後も西三河北部医療圏の基幹病院として体制、設備の拡充を推進し、2023年5月1日に本館をオープンしました。それに伴い、2024年7月には予防医学施設の拡充を目指し、健診センターも改装移転します。

本館では、人とロボットが共生する病院として業務の一部をロボットへ移管し、患者さまと医療者が接する時間を確保し、「患者さまに寄り添った医療」の実現を目指しています。さらに豊田市の中核病院として高度救急医療（がん医療、手術、救急医療など）を充実させました。

また、2024年7月に稼働する3号館にはスポーツ医療に特化した、トヨタアスリートサポートセンター（TASC）を施設内に設置し、高い専門性を持つスタッフの力と新たな施設・機器を合わせることで、学生からプロまで幅広くサポートできるスポーツ診療施設を目指します。

### ●健診センターも2024年7月に改装移転 されますが、新しい取り組みや設備などが ありましたら教えてください。

健診センターは、リニューアルに併せて2号館の1階と4階の2層で構成されます。1階はCTやMRI装置を設置し、定期健診や、グレードアップした「プレミアムコース」の人間ドックを行います。4階は、男女のエリアを区分けし、リラックスして健診が受けられる環境を整えました。設備面でも各種機器の増設などを行っています。

## 診療放射線技師や保健師が 中心となって健診システムを選定

### ●トヨタ記念病院健診センターでは2019年1月 より、サン・プランニング・システムズ（SPS）の 総合健診システム「SUMMITS II」を導入し 活用しています。 導入の経緯を教えてください。

もともとは地元のITメーカーが開発した健診システムを利用してきました。2003年に病院が電子カルテを導入した際、電子カルテ系列の健診システムに切り替えました。その後、電子カルテの

バージョンアップに合わせて、健診システムもバージョンアップしてきました。

2019年に電子カルテの大幅なリニューアルが実施され、そのタイミングで健診システムの見直しを行いました。当時使用していた健診システムを含め、各社の健診システムを比較検討して、自分たちに最適なものを導入しようと考えました。

特に予約電話が取り切れないことや、自動判定が任意で変更できなかったことなど、基本的な機能はあるものの、何か物足りなさを感じていました。その点を改善できるシステムを検討していました。

健診システムの導入は、事務部門や情報システム部門を中心に進め、必要に応じて現場のメンバーに話を聞きながら進めるとしています。当センターの場合、予約や受付をする事務職員はいますが、健診システムを管理する専属事務職員はいないため医療従事者が主導で検討を進めました。そのため現場にいる診療放射線技師や保健師が中心となって事務業務の困り事、効率が悪い作業などや受診者からいただいたご意見などを反映し新システムへの導入検討を進めたことは大きな特徴だと思います。



健診センター 技師長  
診療放射線技師 高宮 浩一 様

### ●現場の皆さんが健診システムの見直し、 導入検討を進められたのですね。

そうですね。これまで健診システムを使ってきた中で、私たちに欲しい機能や仕組みなどが多々あり、新しいシステムでは、それを実現したいと考えました。

### ●具体的に健診システムにどのような機能をお考えだったのですか。

当時想定していた機能をいくつかお話しします。

#### 1. 健診のWeb予約システム

まず、健診のWeb予約機能です。スマートフォンの普及はさらに進み、Webでの予約はあたりまえになると想定していました。そのため、健診システムにおいてもWeb予約機能は欠かすことのできない機能だと考えていました。

#### 2. 健診結果の自動判定機能

従来の健診システムにも自動判定機能はありましたが、自由度に乏しく、判定基準を変更した場合、コメントなどは手入力が必要でした。自動判定のロジック、基準値と健診センター特有、受診者特有の基準値を差分定義するなど、当センターで自由に自動判定の設定ができることが望ましいと考えていました。



### 3. 過去の検査結果の活用

健診のデータは過去何年分もあり、そのデータを活かして受診者の経時的な結果を参照したいと考えていました。

## 必要としている機能があったことが導入の決め手

### ●SPSの総合健診システム「SUMMITS II」はどのようにして見つけたのですか。

インターネット検索で「健診システム Web予約」といったキーワードで探して見つけました。当時使用している健診システムを含めた6社ほどの資料を集め、最終的には3社の機能とコストの比較表を作成・検討し、SPSの総合健診システム「SUMMITS II」の導入を決めました。



健診センター 主任  
保健師 樋口 直美 様

### ●「SUMMITS II」導入の決め手を教えていただけますか。

機能の面が一番ですね。私たちが必要としている機能があり、実現できそうなシステムでした。また、コスト面でも導入しやすい価格帯でした。当時の健診システムもWeb予約機能は外部機能を使って追加できるとのことでしたが、コスト面で高額でした。

スケジュール的には電子カルテの大幅リニューアルの話が出た2017年から検討を始め、その年の秋に「SUMMITS II」の導入を決めました。2017年暮れから2018年3月まで要件定義し、2018年4月から約1年間導入開発を行い、2019年1月から「SUMMITS II」の活用を始めました。また、すべてを同時に切り換えるのはリスクがあるとのSPSからの提案でWeb予約は1年遅れの導入計画で進めました。

### ●「SUMMITS II」の導入については、いかがでしたか。

診療部門は電子カルテを軸に動いています。同一施設内の健診センターとして、電子カルテとの連動は必須要件だと考えていました。例えば健診システムで入力した情報は、電子カルテに再度入力することなく連携でき、健診センター内の検査室で受診者を受け付け、ステータスを「検査開始」にすると、電子カルテ上でも健診センター内で検査を開始したことが分かるように2つのシステムが連携する仕様に決めました。また、システムだけでなく、各種検査機器との連携も実施しています。当センターの担当はもちろんのことSPSも大変だったと思います。

## 当病院として初めてAWS上にシステムを構築

### ●健診システム変更への対応としてマニュアル制作や勉強会はされましたか。

自分達でマニュアルを作成しましたし、SPSに事務スタッフ向けに予約の取り方の勉強会を行ってもらいました。導入当初大変だったこととして、以前のシステムでは、当日の結果を見ている画面から過去の結果を参照することができたのですが、「SUMMITS II」では新たに別の画面を開いて過去の結果を見る必要があります。複数(10画面まで)の画面を見ることができるというメリットはあるのですが、最初の頃は戸惑いました。

### ●健診システムそのものが変わったわけですから、スタッフの皆さんは慣れるまで大変だったのですね。

そうですね。いまでは皆使いこなしていますが、導入当初は大変でした。翌日の健診受診者の健診コースも整っていない日々がしばらく続き自転車操業の状態でした。SPSのサポートを受けながらなんとか軌道に乗せることができました。



健診センター 主任  
診療放射線技師 丹羽 哲也 様

### ●Web予約機能に関しては、実際に活用を始めたのは2021年4月でしたね。

当センターにとっては、Web予約機能が稼働してようやく「SUMMITS II」の導入が完了したという感覚です。

今回、Web予約機能は当院として初めてクラウド(AWS)上に構築したため、社内の情報システムに関する課題がたくさんありました。その対応にはSPSをはじめ電子カルテのベンダーやシステムインフラのベンダーなどにも協力してもらって構築し、運用が可能となり、当初計画より1年3ヶ月遅れ、「SUMMITS II」導入から2年3ヶ月後のスタートとなりました。

## 健診受診者とスタッフの利便性、効率性が向上

### ●「SUMMITS II」の導入効果について教えていただけますか。

#### 1. 業務管理のシステム化で受診者の利便性が向上。

以前は紙ベースで業務を管理していましたが、「SUMMITS II」導入後はすべてシステムでの管理となり、受診者とスタッフ双方の利便性が向上しました。紙ベースでの運用の際、胃部X線(バリウム検査)の前に胸部レントゲン撮影といった検査の順番は、検査スタッフが紙を見て確認する必要がありました。いまでは管理を

すべてシステムで行っていますので、「SUMMITS II」の画面で次に案内すべき検査や、空いている検査への案内が効率的にできるようになりました。

## 2. 読影機能と画像ビューアのシステム連携をすることで、読影結果の工数削減。

いままでの読影は、リストを紙に出力して医師が読影し、手書きで読影結果を書いたものを別のスタッフがシステムに手入力していたため、患者誤認や入力ミスの可能性がありました。いまでは読影用ビューアに対象受診者の画像をシステム連携で表示し、医師がその画像を診ながら直接読影結果をシステムに入力できます。入力ミスを防ぎ、読影結果入力までの工数を大幅に削減できました。

## 3. 健診結果の自動判定ロジックは自由度が高く当センターで変更・管理できる。

以前のシステムでは、自動判定の結果を確認する際に医師が判定結果を変更した場合、手入力で総合所見を変更する必要がありました。「SUMMITS II」では、自動判定のロジックを自由に設定することができるため、希望に添ったロジックを組むことができます。そのため、自動判定後の判定を医師が修正した場合も再度自動判定を行うことで、総合所見まですべて変更されます。医師の希望に応じて、ロジックの作成・変更を行い実装しています。

「SUMMITS II」では、自動判定後に医師が判定を修正した場合でも、再度自動判定を行う事で、手修正なく総合所見を変更することができます。

また、自動判定のロジックを自由に設定できることにより、医師の希望に沿った総合所見を適宜作成・変更することができます。

## 4. 検査の事前準備がなくなった。

導入前は予約内容をもとに健診日の3日前に事前準備として検査オーダーを行っていました。そして健診前日に尿コップや採血用のスピッツ管を確認し、受診者毎にまとめる作業が必要でした。

「SUMMITS II」導入後は当日オーダーができるようになり、受診者の前でBC・ROBO（全自動採血準備装置のこと）で検査検体ラベルの出力をしています。患者誤認も防止できますし、問診で必要になった検査の追加も簡単に行えるようになりました。

事前の検査オーダーと前日のスピッツ管の確認作業などを併せると3時間以上／日の工数を削減できています。

## 5. Web予約機能により電話対応の負荷が減少した。

以前は、当センターがある豊田市が健診のお知らせを発送すると、ほどなく健診予約の電話が入り始め、電話がつながりにくくなることから、事務スタッフに加えて医療従事者も予約対応せざるを得ない事態が発生していました。Web予約機能導入後は、電話が混みあう時間が減り、予約受付の業務負荷がかなり軽減されてきた印象です。

## 6. 検査オーダーの工数削減。

「SUMMITS II」ではスタッフが予約を確定すると同時に、必要となる検査、心電図や血液検査、レントゲンなど各種検査に自動で電子カルテにオーダーが連携されるので、別途

検査のオーダーをする必要がなくなりました。キャンセルの場合も同様に、自動でキャンセル（電子カルテオーダー削除）されるため、大幅に工数を削減できました。

## 7. 営業支援ツールとして活用できる。

「SUMMITS II」では、月次実績や売上などの数字をすぐに参照できます。月次に関しては前年同月比なども出力できるため、こうしたデータを企業営業の際に活用しています。年間を通して受診者が減っている場合は、社内で再度呼びかけを行うといった提案もできるため、健診以外に活用できる点も評価しています。



事務統括室  
事務 山口 貴子様

## 活用しきれていない機能への提案に期待

### ●今後の「SUMMITS II」の活用予定がありましたらお教えいただけますか。

「SUMMITS II」導入時に考えていた、過去の蓄積データの活用については、設定が複雑でまだ実現できていません。主にマスタメンテナンスを担当しているメンバーが医療スタッフなので、ここにSEがいたらもっと作り込んでいろいろなことを実現できるのではないかと考えています。

### ●SPSならびに「SUMMITS II」へのリクエストや期待がありましたらお教えいただけますか。

健診センターのリニューアル後は、スマートカードを使った案内誘導、整理券管理システム導入などを行っていきます。今後も院内外システムと「SUMMITS II」との連携が多く発生しますので、まずはその対応をよろしくお願いします。

また、導入時サポート面が疎かになった時期がありました。最近では改善されつつありますが、更なるサポート面の充実を期待しています。そして現場の医療スタッフは使いやすくなるアイデアを持っています。是非、ヒアリングの機会を与えていただき、他システムにない機能の実装も期待しています。

お忙しい中、貴重なお話をお聞かせいただき  
ありがとうございました。

取材日時 2024年2月  
トヨタ記念病院  
<https://www.toyota-mh.jp/>

※記載の所属、役職名等は、  
2024年2月時点のものを記載しています。